

セミナー「強震動予測レシピー新潟県中越沖地震や能登半島地震などに学ぶー」報告

平成 20 年 4 月 11 日（金）9:45-17:00、大阪工業大学摂南大学大阪センターにて、日本地震工学会と関西地震観測研究協議会の共催で講習会「強震動予測レシピー新潟県中越沖地震や能登半島地震などに学ぶー」が開催されました。昨年に引き続き 2 度目の開催でしたが、今年は昨年発生した新潟県中越沖地震や能登半島地震などの分析結果を踏まえ、被害地震による検証の内容を追加し、合計 6 名の講師の先生方により、講習が実施されました。参加者は 50 余名でした。プログラムは以下の通りです。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 強震動予測手法の基礎 | : 香川敬生（地域地盤環境研究所） |
| 2. 反射法探査と地盤構造のモデル化 | : 山田浩二（阪神コンサルタンツ） |
| 3. 統計的グリーン関数法 | : 堀家正則（大阪工業大学） |
| 4. 強震動予測レシピ | : 入倉孝次郎（愛知工業大学） |
| 5. 最近の被害地震による検証 | : 釜江克宏（京都大学原子炉実験所） |
| 6. 将来の大地震予測への適用例 | : 羽田浩二（ニュージェック） |



会場の様子



入倉先生のご講演

香川先生からは、強震動がどのように成り立っているかということや波形合成手法の古本的な考え方について、丁寧に解説をしていただきました。山田先生からは、なぜ地盤構造モデルを作成しなければならないのかといったことから、物理探査手法の説明、地盤構造モデルの作成および検証にいたるまで、実例を交えて解説をしていただきました。堀家先生からは、統計的グリーン関数法で波形合成を実施した場合の問題点やその解決方法等を解説していただきました。入倉先生からは、強震動予測レシピの基本的な考え方のほか、地震調査委員会から新たに示される地表の活断層長さから震源断層の断層モデルを推定する方法に関する基本的な考え方の解説をしていただきました。釜江先生からは、最近の被害地震を対象としたフォワードモデリングによるアスペリティからなる震源モデルの紹介と、レシピで利用されている経験式との関係を示し、レシピの有効性について解説していただきました。羽田先生からは、レシピを適用して大地震の予測を行う事例を実際の手順を示しながら、断層モデルを設定する際に注意しなければならない点等を詳しく解説していただきました。

朝から夕方までの長時間にわたる講習会でしたが、出席された方は熱心に聴講されていました。

最後に、貴重な講習を賜りました講師の先生方に心より御礼申し上げます。

（文責：事業企画委員会 大西良広（財）地域地盤環境研究所）